

## 第 2 1 回 長南町過疎対策検討委員会議事録（要旨）

平成 2 6 年 1 月 2 8 日（火）  
庁舎分館 2 階第一会議室  
1 8 時 3 0 分から

出席者 過疎対策検討委員会委員 9 名  
事務局 葛岡副町長、石橋課長、常泉室長、小澤

### 1. 委員長あいさつ

昨年の 1 2 月 1 7 日に提言書を町長へ提出いたしました。また、2 月 1 日からは新町長の体制となり、行政運営が行われていきます。過疎対策検討委員会においては、3 月 3 1 日までの任期の中で、どのような取り組みをしていくのか検討していきたいと思います。

### 2. 検討・協議の内容

（岩瀬委員長）

本日は、この委員会の今後のあり方について各委員よりご意見をいただきたいので、発表のほうをよろしくお願いいたします。

（武田委員）

提言の内容をひとつひとつ熱意を持ってやっていくことが重要であります。

（長谷川委員）

今までは過疎対策の検討をおこなってきましたが、今後はその検討した内容の実行に移さなければいけないと考えております。今後は、この委員会が何らかの形で存続し、既に行われているイベントや取り組みなどに関わっていく必要があると考えます。

（田島委員）

現状では、提言はしたものの、まだ形となって実行されている物ではありません。ですから、町長さんや副町長さんにも委員会に参加していただき、急務

であります過疎対策についてご意見などがもらえるような委員会をやっていただけたらいいと考えます。

(三十尾委員)

今後、提言の内容を実行に移す際に、それぞれの専門委員会などを作るのだと思いますが、まず、新町長に提言の内容についてのご意見を聞いて、早急に取り組める物については、実行していただくようお願いしたいです。新町長のご意見を聞く場を作ることは大事だと思います。

今後もこの委員会を残すかどうかは、新町長の考え方もあると思いますので、3月くらいまでには一度話し合いを持つ場が持てればいいと思います。

(中橋委員)

商工会としては、軽トラック市のようなものを先行してやっていきたいと考えています。

委員会の存続については、今後も皆さんが希望して、月1回、又は週1回などとやるということになれば、反対するものではありません。

(佐久間委員)

提言書が出来上がり実行に移さない手はありません。この委員会をぜひ残していただいて、新しい町長さんにも加わっていただき、更に内容についての検討と提言の実行を推進していきたいと思います。

(岩瀬委員長)

みなさんのご意見を聞きますと、委員会をこのまま残して存続し、新町長のご意見等も聞く中で、政策の実現に繋げていきたいという意見が大部分を占めていることが分かりました。

ただ、この委員会は、町長から委嘱を受けて行っている物になります。存続についての意向について伝えることはいいと思いますが、決定については町の判断になろうと思います。

(石橋総務課長)

任期は、3月31日までと要綱で定めてあります。

それ以降については、新町長の意向を踏まえる中で、新たに取り組んでいくのか、継続していくのか考えていくこととなります。

(葛岡副町長)

いままでに20回を重ねる会議の中で、人口減少対策に対する提言の取りまとめに熱い思いで取り組んでいただき、すばらしい提言書が取りまとめられたことに感謝申し上げます。

新町長にこの提言内容を引き継いでいただき、検討をしていくこととなります。また、その中で、新町長の考え方等もあらうと思いますので、確認をしつつ進めていきたいと考えております。

(石橋総務課長)

執行部といたしましては、委員のみなさまの熱い思いを、責任を持って新町長に説明することをお約束いたします。

(岩瀬委員長)

それでは、執行部として新町長に説明する際に、委員会も一緒に説明することは可能なのでしょうか？

(石橋総務課長)

新町長の予定を考えますと、臨時議会や3月議会等立て込んでおり、なかなか日程調整が現段階では難しいと思いますので、具体的にいつにするのか？また、委員会も一緒に説明するのかなどは即答できません。

(石田アドバイザー)

過疎対策は、どこの部署が所掌ですか？

(石橋総務課長)

政策室になります。

(石田アドバイザー)

重要課題である過疎対策をどうやっていくか、前町長の時にはこのように取り組んできているということを含めて、説明することはしっかりやっていただきたいと思います。

また、今後委員会を継続することによって何のメリットがあるのか？それは、今後の展開を見守る側としての委員会なのか、若しくは実施する側としての委員会なのかなどを明確にしておく必要があります。

なんのために委員会を継続してほしいのかを説明できるようにしておかないといけませんね。

(武田委員)

委嘱の期間は、3月の末までとなっています。これを一つの区切りとして、検討委員会はいったん終わりとし、以降は、町の判断で委員会を設置するかを含めて検討していただくことでいかがでしょうか？

(佐久間委員)

検討委員会で提言を取りまとめました。また、新町長のもと、過疎対策に取り組んでいきます。その中間役のようなものが必要なのではないかと考えます。すぐに実行できないから、実行に向けての実行委員会みたいなものまでは、この過疎対策検討委員会でやってもいいのではないのでしょうか。

(岩瀬委員長)

実行委員会となると、検討委員会の範囲をやはり超えているのではないのでしょうか。

(佐久間委員)

やはり、提言書を作る上で、この場にいる方々の知恵が入っているので、それをうまく生かせるように、実行する際にも助言などができるようにしたいほうがよいと思います。

(石田アドバイザー)

検討委員会としては、3月末でいったん終わりとして、今後の展開については、それぞれ必要とする実行委員会だったりワーキンググループなどを立ち上げる中で、参加していただいて実施に向けて取り組んでいくことではないかがでしょうか。

(岩瀬委員長)

過疎対策事業を一元化して担当部署としてやっていく室が必要ですね。

それと、町民レベルでの過疎対策の検討をする組織をつくるのはいかがでしょうか。そうすると、官と民が意見交換するなかで進めていくことができると思います。

(三十尾委員)

新町長との話し合いの機会を持ちたいですね。それは、委員みんなでやるのではなくて委員長が代表して行う形がよいと思います。

(岩瀬委員長)

それでは、少しまとめに入りますが、過疎対策検討委員会は、委嘱の期間のとおり平成26年3月31日でいったん終わりということにしましょう。しかし、町には、過疎対策推進室のようなものを早急に立ち上げていただき、過疎対策事業を一元管理する組織づくりを要望します。また、民間として、住民レベルでの新たな組織づくりを行い、官民一体となって過疎対策に取り組んでいきたいと考えます。さらに、新町長においては、過疎対策に対する考え方を述べていただきたいと考え、その話し合いの場を設けていただきたいと考えます。

今後、その住民レベルのワーキンググループではないですが、組織を立ち上げるにあたり考え方をまとめておかないと、なかなかスムーズな立ち上げができないと思います。

(佐久間委員)

過疎対策検討委員会の熱意、やる気を新町長にもぜひ見ていただきたいと思います。この会議をしている現場を見ていただきたいです。

(武田委員)

それでは、岩瀬委員長のほうから新町長に対し、会議開催時にお越しただけるように話していただけないでしょうか。

(岩瀬委員長)

わかりました。新町長にお話ししてみます。

それと、住民レベルでの組織づくりをどうしていくのか。どのような組織にするのか。何について取り組む組織としていくのかなどといった骨格づくりについて次回の検討課題としましょう。

それでは、次回の過疎対策検討委員会は、新町長に日程の確認をして決定いたしますので、決まり次第通知します。

午後8時30分 閉会